



## サイエンス&テクノロジーの強みを活かして、患者さんへ、そして社会へ、 イノベティブなソリューションを提供することを目指して、挑戦を続けます。

株主の皆様には、日頃よりご支援・ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、当社独自のDXd ADC技術を用いたエンハーツ®の発売により、本格参入したがん事業が急成長を遂げていること等を背景に、2023年4月に第5期中期経営計画(2021~2025年度)の最終年度である2025年度の売上収益の見込みを1兆6,000億円から2兆円に引き上げました。さらに、エンハーツ®と同じDXd ADC技術を用いて開発中の複数の開発候補品に対しても、社内外から大きな期待が寄せられています。

事業活動を進める上で、当社グループではあらゆる組織において、常に患者さんの目線で考え判断すること、すなわちPatient Centricityを原点として活動しています。昨年、がんの治療を乗り越えて仕事に復帰された方を社内講演会にお招きしました。「一日でも長く生きたい。なぜなら、その間に、もっと良い治療法が見つかるかと信じているからです。」とおっしゃった言葉を聞いて、「私たちは希望を作っている」ことを再認識するとともに、「世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する」という当社グループのパーパス(存在意義)へのコミットメントをさらに強固なものとししました。

一日でも早く、世界中の一人でも多くの患者さんに、新たな治療選択肢を提供できるよう、当社最大の強みであるサイエンス&テクノロジーを活かして、挑戦を続けてまいります。「第一三共の株主であることが誇らしい。応援している。」と株主の皆様には言っていただけるよう、本中計の目標達成と2030年ビジョン「サステナブルな社会の発展に貢献する先進的グローバルヘルスケアカンパニー」の実現に全社総力を挙げて取り組んでまいります。

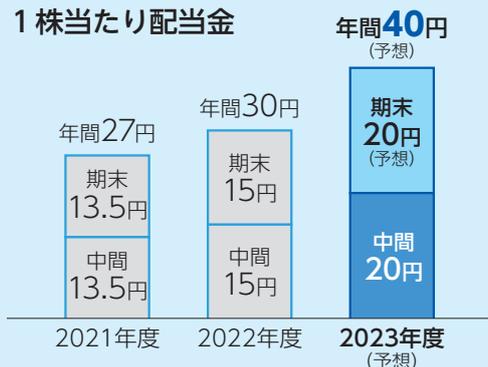
今後とも変わらぬご支援・ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。



代表取締役社長 兼 COO 奥澤宏幸

### 株主還元方針 と 2023年度中間配当

#### 1株当たり配当金



第5期中期経営計画(2021~2025年度)期間中におきましては、利益成長に応じた増配、あるいは機動的な自己株式取得を実施することで、株主還元のためさらなる充実を図る方針です。

2023年度においては、Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA(米国メルク)とのDXd ADC 3製品に関する戦略的提携契約締結に伴う契約時一時金の受領に加え、エンハーツ®を中心に業績が好調に推移していること等を受け、通期業績予想を上方修正したことから、1株当たり配当金予想を前年度に比べ10円増配の年間40円に修正し、中間配当として20円をお支払いすることとしました。



## サイエンス。それは、希望。

第一三共は、今、2030年ビジョン「サステナブルな社会の発展に貢献する先進的グローバルヘルスケアカンパニー」の実現に向けて大きな飛躍を遂げようとしています。その源泉となる我々の想い、取り組みを多くの人々にお伝えしたく、2023年10月2日、テレビCMを含む企業広告の展開を開始しました。

第一三共の最大の強みは、世界最先端のサイエンス&テクノロジー。そして、それは、患者さん一人ひとりのためにあります。今回、具体的な取り組みとして、ADC(抗体薬物複合体)技術を採り上げ、我々の想いを「研究者の日々」、そして「家族の日々」の2つの動画に込めました。

### 「研究者の日々」篇

第一三共は、  
薬だけでなく、その先の人を見つめる。  
さまざまながん治療に応用できるADC技術。  
がん細胞を狙って攻撃し、  
「自分らしく生きる」治療を目指す。  
サイエンスの力で、がん治療に、新しいあたりまえを。

### 「家族の日々」篇

がんになる。  
それだけで誰かが希望を失ってはいけない。  
私たち第一三共が取り組んでいるのは、  
これからの治療技術、ADC。  
がん細胞を狙って攻撃し、  
副作用の少ない治療を目指す。

これらの動画は、制作裏話やADC技術のイラスト解説、革新的な医薬品を創出し続ける上での企業活動の一端のご報告(Spotlight)等と共に、特設サイトでも公開しています。是非ご覧ください。

[第一三共ホームページ](#) > [特設サイト](#)

[サイエンス](#) [それは希望](#) [検索](#)



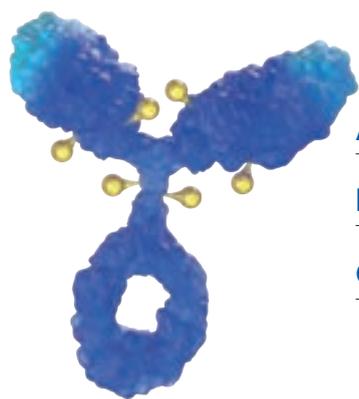
## CM制作の裏側にある、第一三共の熱い想い

第一三共のADC(抗体薬物複合体)技術は、グローバルでも評価され、世界中のがん患者さん達の希望となっています。新しい医薬品を生み出すまでには非常に長い期間を要すると言われる中、第一三共が5年弱という通常よりも短い期間で開発にこぎつけた裏側には、より良い薬をいち早く届けようとする研究者たちの熱い想いがあります。

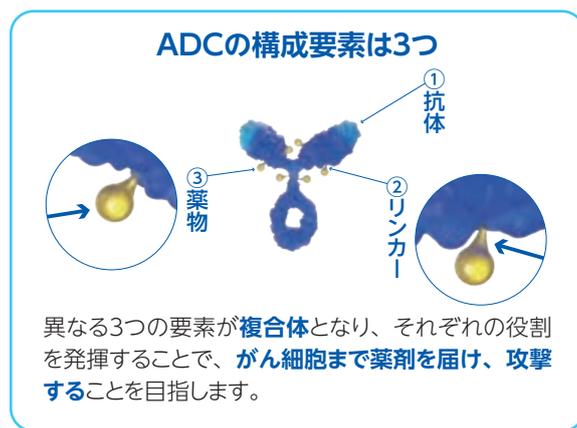
研究者たちへの取材ノート(Backstory)は特設サイトをご覧ください。



## ADC(抗体薬物複合体)とは



Antibody 抗体 に  
Drug 薬物 を結合し  
Conjugate 複合体 として  
バイオ医薬品



ADCが血液中を循環し、がん細胞に到達すると……

### ① 抗体が

がん細胞表面の  
特定のたんぱく質に  
狙いを定めて  
結合

がん細胞内に  
ADCが取り込まれると

抗体と薬物を結ぶ

② リンカーが  
切断され

③ 薬物が

がん細胞を  
内側から攻撃

## ADCの可能性

抗体と薬物の  
組み合わせを変えることで、  
異なる複数の疾患への  
治療効果が期待されています。

## 第一三共のDXd ADC技術

既に発売しているエンハーツ®にも使われている当社独自のDXd ADC技術は、リンカーとペイロード(薬物)に特徴があります。

- ▶ **リンカー**は、抗体1つあたり最大8個のペイロードを搭載できることで、多くの薬物をがん細胞に送り込むことができます。また、血液中での高い安定性により、薬物が、がん細胞に到達する前に放出されることを抑える一方、がん細胞内で多く発現する酵素で選択的に切断される特徴があります。
- ▶ **ペイロード**は、新規で強力な薬剤である「DXd」で、周囲のがん細胞にも作用するバースタンダー抗腫瘍効果を発揮し、抗体から外れた後、血液中から速やかに代謝される特徴があります。

「乳がんの治療体系を大きく変革する」として注目を集めた当社グローバル主力製品のエンハーツ®は、当社独自のDXd ADC技術を用いて創製したHER2を標的とするADC(抗HER2 ADC)です。当社売上収益の伸長に大きく貢献を始めていますが、新たな適応症の取得を目指し、さらに臨床試験を進めています。

エンハーツ®と同じDXd ADC技術を用いた開発候補品(パイプライン)も充実してきました。新たな治療選択肢を必要とする世界中の患者さんに、当社の製品をより早くお届けできるよう、開発を進めています。

株主・投資家の皆さま>個人投資家の皆さま>第一三共のがん事業について

第一三共 がん事業 検索

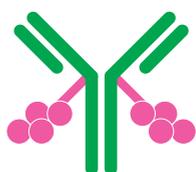


# 米国メルクとの戦略的提携

## より早く、より多くの患者さんにイノベーティブな薬をお届けするために

2023年10月20日、当社独自のDXd ADC技術を用いた3つの製品であるパトリツマブ デルクステカン(HER3-DXd)、DS-7300(I-DXd)及びDS-6000(R-DXd)について、Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA(以下、米国メルク)と全世界での開発及び商業化に向けた契約を締結しました。米国メルクは、免疫チェックポイント阻害薬「KEYTRUDA®」を柱にがん領域における豊富な経験、がん免疫療法に関する専門性、高い開発力を持つ世界トップクラスの会社です。当社の強みであるサイエンス&テクノロジー及びADCに関する専門性を組み合わせることにより、3製品の開発を加速し、製品価値の極大化を図ります。さらに、今回の戦略的提携を契機に、開発が先行するこれらのADCに続く成長ドライバーへの迅速・柔軟なリソース配分を行い、より早く、より多くの患者さんにイノベーティブな薬をお届けする挑戦を続けてまいります。

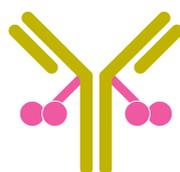
### パトリツマブ デルクステカン / HER3-DXd(抗HER3 ADC)



可能性のある適応症

- ・非小細胞肺がん
- ・乳がん など

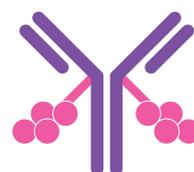
### DS-7300 / I-DXd(抗B7-H3 ADC)



可能性のある適応症

- ・小細胞肺がん
- ・食道扁平上皮がん
- ・前立腺がん など

### DS-6000 / R-DXd(抗CDH6 ADC)



可能性のある適応症

- ・卵巣がん
- ・腎細胞がん など

## 提携の概要

開発	◆単剤・併用療法を共同開発 ◆開発費は、製品毎に20億米ドルまで米国メルクが75%を負担、それ以降は両社で折半	
	日本	当社が単独販売し、米国メルクにロイヤルティを支払
販売	日本以外	両社が共同販促し、売上総利益と販促費等を折半
	地域別の売上収益計上 当社が拠点を有する全ての国・地域(日本を含む): <b>当社が計上</b>	
製造	◆当社が製品を製造、供給	

## 受領対価

(1ドル=150円換算、契約締結時の為替レート水準)

ユニット	HER3-DXd	DS-7300 (I-DXd)	DS-6000 (R-DXd)	計
契約時 開発ステージ	2023年度下期 米国で 承認申請予定	～ フェーズ2	～ フェーズ1	—
契約時 一時金	2,250億円*1	2,250億円	2,250億円*1	6,750億円
開発費関連 一時金	750億円*2	750億円*2	—	1,500億円
販売マイルストーン (最大)	8,250億円	8,250億円	8,250億円	2兆4,750億円
最大総額	1兆1,250億円	1兆1,250億円	1兆500億円	3兆3,000億円

\*1: HER3-DXdは契約締結から1年後、DS-6000は2年後に、契約時一時金の半額を受領予定。

\*2: 製品毎に20億米ドルまでの開発費について両社で折半した場合と比較して、米国メルクが当社より5億米ドル(750億円)を多く負担する(3製品共通)。

<米国メルクが当社より多く負担する5億米ドル(750億円)の受領方法>

HER3-DXd、DS-7300分: 契約締結時に開発費関連一時金として受領する。

(開発終了に伴い、米国メルクに一部返還される可能性あり)

DS-6000分: 契約締結時に受領せず、開発費が発生する都度、受領する。

当社ホームページに、戦略的提携に関する説明会、ESMO2023(欧州臨床腫瘍学会)及びWCLC2023(世界肺がん学会)等の学会ハイライトに関する資料を、アナリストとの質疑応答を含む説明会動画と共に掲載しています。

第一三共ホームページ>株主・投資家の皆さま>IRライブラリ>IR説明会資料

第一三共 IR説明会 検索





## 2023年度 連結業績

## ■ 第2四半期累計(2023年4月~2023年9月) 業績ハイライト



\*営業利益から一過性の収益・費用を除外した経常的な収益を示す指標

- グローバル主力品のエンハーツ®(抗悪性腫瘍剤/抗HER2 ADC)やリクシアナ®(抗凝固剤)等の伸長及び円安の進行による為替の増収影響等により、売上収益は大きく伸長しました。
- 事業進展に伴う販売費・一般管理費の増加、エンハーツ®とそれに続くADCの開発進展に伴う研究開発投資の増加及び円安による経費の増加影響があった一方で、売上収益の増加に伴う売上総利益の増加等により、コア営業利益は増益となりました。

## ■ 2023年度通期(2023年4月~2024年3月) 連結業績予想の上方修正

(単位: 億円)

売上収益は、為替影響による増収効果に加え、エンハーツ®を中心とした製品売上の好調な推移、DXd ADC 3製品に関する米国メルクとの戦略的提携に伴う契約時一時金の繰延収益の計上を織り込み、1兆5,500億円に上方修正しました。

コア営業利益は、円安が経費の増加要因となるものの、売上収益の増加とMerck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA (米国メルク)との研究開発費のコストシェア開始による減少影響等を織り込み、1,550億円に上方修正しました。

	2022年度実績	2023年度予想 【4月公表】	2023年度予想 【10月公表】 (修正差異)
売上収益	12,785	14,500	15,500 (+1,000)
コア営業利益	1,226	1,400	1,550 (+150)
当期利益 (親会社帰属)	1,092	1,150	1,350 (+200)

## ■ グローバル主力製品売上収益

(単位: 億円)

(単位: 億円)

製品	第2四半期(前同比)	2023年度予想(前年比)
エンハーツ	1,830 (+812)	4,336 (+1,752)
日本	104 (+52)	215 (+98)
米国	1,059 (+505)	2,295 (+849)
欧州	392 (+256)	928 (+558)
ASCA	179 (+126)	378 (+236)
契約時一時金*	49 (-)	98 (-)
開発・販売マイルストーン等*	48 (△127)	420 (+10)

製品	第2四半期(前同比)	2023年度予想(前年比)
リクシアナ	1,377 (+204)	2,773 (+334)
日本	571 (+64)	1,129 (+77)
米国	16 (+1)	33 (+3)
欧州	679 (+121)	1,388 (+217)
ASCA	111 (+18)	224 (+37)

\*アストラゼネカ社との戦略的提携による共同開発・商業化を推進中

## ■ ユニット別売上収益

(単位: 億円)

ユニット	第2四半期(前同比)	2023年度予想(前年比)	事業内容
ジャパンビジネス	2,468 (+218)	4,994 (+415)	日本国内のイノベティブ医薬品(新薬)、ワクチン、ジェネリック事業
第一三共ヘルスケア	374 (+38)	731 (+28)	一般用医薬品等に関する事業
オンコロジービジネス	1,488 (+781)	3,306 (+1,452)	第一三共Inc.(米国)と第一三共ヨーロッパのがん領域事業
アメリカンリージェント	987 (+46)	2,107 (+233)	鉄欠乏性貧血治療剤やジェネリック注射剤等を扱う米国子会社
EUスペシャルティビジネス	864 (+146)	1,800 (+296)	がん製品を除く第一三共ヨーロッパの製品事業
ASCAビジネス	830 (+132)	1,698 (+270)	アジア・中南米(Asia, South & Central America)事業

製品別売上収益の状況や過年度実績比較、また主要開発品目の臨床試験の状況等の詳細情報は、ホームページに掲載している決算補足資料からご確認いただけます。決算経営説明会の映像・スライド資料と共に是非ご活用ください。



## 2024年3月上旬予定 IR支援会社共催の個人投資家説明会スライド作成に向けて

株様のご意見やご質問を、説明会の発表資料作成に反映してまいります。

〇〇についてもっと詳しく知りたい！〇〇について分かりやすく説明して欲しい！IR資料に掲載の〇〇とはどういう意味？等、説明会で聞いてみたい事項を右記の株主様専用サイト内のアンケートから是非お聞かせください。



また、アンケート内でメールアドレスをご入力いただいた株様には、上述の説明会の開催情報をお送りします。当社ホームページでのオンデマンド配信も予定しています。

多くの株様のご意見やご質問をお待ちしております！

2024年1月31日(水)まで受付

株主様専用サイト  
[Engagement Portal]

<https://engagement-portal.tr.mufg.jp/>



エンゲージメントポータル 検索

① ログインID 1900 XXXX XXXX 入力不要

株主番号(8桁)

※株主番号は、配当金計算書の右上に記載されています。左端のボックスに1900と入れた上で、4桁ずつご入力ください。

② パスワード .....XXXXXXXX2023

※この株主通信をお送りしたご登録住所の郵便番号に2023を付けて11桁としてください。

本サイト・ログインに  
関する  
お問い合わせ

三菱UFJ信託銀行 証券代行部

TEL 0120-676-808

(通話料無料、土日祝日等を除く平日9:00~17:00)

## ご案内

## 当社の株主総会資料のご提供方法について

2022年9月1日施行の改正会社法により、株主総会資料は原則ウェブサイトでご確認をいただく電子提供制度が導入されましたが、当社では、決議事項のご審議をいただくにあたり、株主総会議案の参考書類は引き続き書面にてご郵送する予定です。事業報告等の詳細情報についても、書面交付を必要とされる株主様は議決権行使基準日となる3月31日までにご請求ください。

## ▼全ての株主様に郵送

開催概要及び株主総会情報を掲載したウェブサイトへのアクセス方法等

株主総会議案の参考書類

## ▼3月31日までに書面交付請求いただいた株主様に書面郵送(予定)※

事業報告

連結計算書類

監査報告

等

※法令及び当社定款第16条に基づき、電子提供のみとしている事項を除きます。

## 書面交付請求のお手続き方法

お取引の証券会社又は下記記載の三菱UFJ信託銀行までお申し出ください。

既にご請求をいただいた株主様は、2024年定時株主総会に向けた再度のお手続きは不要です。

三菱UFJ信託銀行 証券代行部

(証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル)

TEL 0120-696-505

(通話料無料、土日祝日等を除く平日9:00~17:00)

## よくあるご質問



<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>

もしくは株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。

MUFG 書面交付請求 検索

